

研究タイトル：

人と情報・人工物との社会的相互作用

氏名：	安藤 敏彦/ANDO Toshihiko	E-mail：	tando@sendai-nct.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(情報科学)
所属学会・協会：	電子情報通信学会, 情報処理学会, ACM, 形の科学会, 国際演劇協会		
研究分野：	人間情報学		
キーワード：	ヒューマン・コンピュータ・インタラクション		
技術相談	・動作解析, 音声感情分析		
提供可能技術：	・演劇・音声指導		



研究内容：

研究課題

- 人-人工物間のコミュニケーションデザインに関する研究
 - 「弱いロボット」を用いた認知症高齢者介護支援に関する研究
 - 感情認識に関する研究
- ARを用いた情報共有支援に関する研究
 - ARを用いた震災遺構の案内に関する研究

研究シーズ

● 人-人工物間のコミュニケーションデザインに関する研究
 今日、AIが一般的な技術として日常的に使われるとともに、ロボットが日常の多くの場面で利用されつつある。本研究では、ロボットなどの人工物が社会的にどのように許容されるか、あるいは許容される要件を、動作解析やフィールドワーク、演劇の手法などを利用して調査している。特に、感情を通じた意思疎通をモデルに、音声感情認識や人工物の情動作成に取り組んでいる。その応用として、「弱いロボット」の考え方を応用した認知症者・高齢者の介護者に対する支援についても取り組んでいる。



● ARを用いた情報共有支援に関する研究

GPUなどによる地理的な情報を利用し、スマートフォン上で拡張現実(AR)を利用して情報提示をさせたりすることで、実空間での自然な情報共有や協同作業の支援について取り組んでいる。その応用として、東日本大震災の震災遺構の案内のためのアプリケーションの開発を行っている。震災遺構を巡るルートの提供や音声ARを用いて臨場感のある案内を実現する。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	